

Sankka

讃歌
冬号

京都九条病院 Communication Book

◎特集① 脳神経外科

脳卒中センター長に聞きました。

機能予後の改善を目的とした治療を提供し
地域の脳神経外科救急医療を牽引しています

◎特集② 京都九条病院のさまざまな取り組み。

○ストローク(脳卒中)ケアチーム ○褥瘡対策チーム

○京都私立病院協会会長杯争奪

第12回病院対抗フットサル大会で、京都九条病院チームが初優勝!!

◎コトニケーション広場

○健康は毎日の食事から「医食同源」講座(第25講目)

○地道にコツコツ「健康運動」講座(第4講目)

○ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ(第46弾)

○私の病院自慢あれこれ(第46回)

◎院内散策

○第12回京都九条病院

病診・病病連携セミナー



院長 山本 垂水



脳神経外科
脳卒中センター長
平井 誠

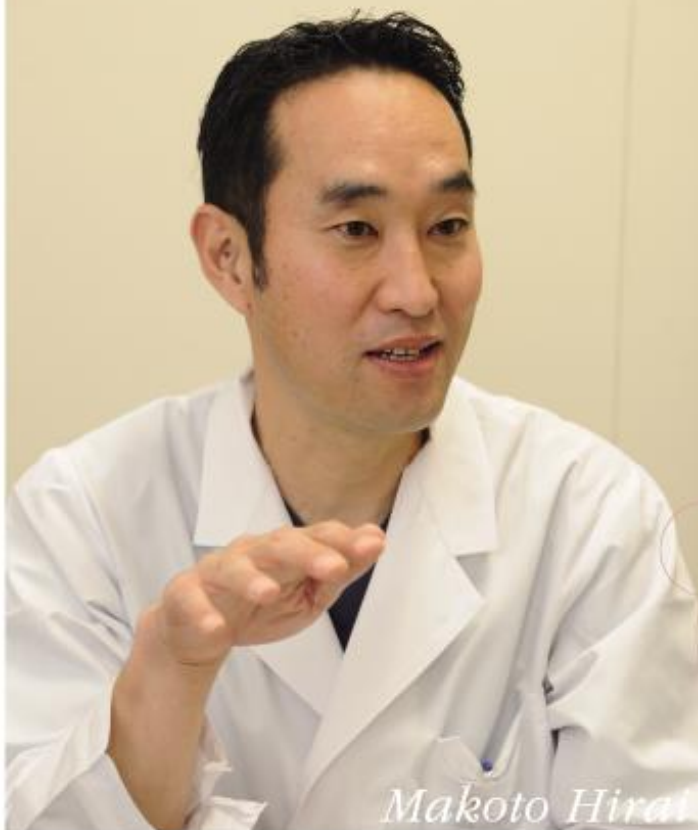
vol.46
2018 Winter
冬号

機能予後の改善を目的とした

治療を提供し

地域の脳神経外科救急医療を

牽引しています

京都九条病院
脳神経外科 脳卒中センター長

平井 誠

昨年で設立10年になった脳卒中センターは、24時間体制で患者さんの治療に取り組み続けています

京都九条病院脳神経外科では、2007年4月に設立した脳卒中センターを中心に、24時間体制で脳卒中、重症頭部外傷などの脳神経外科救急医療を行っています。

脳卒中の治療には、大きく分けて開頭手術とカテーテル治療（血管内治療）がありますが、当院は両方の療法に優れた技術を有する常勤3名、非常勤2名の専門医が、患者さんの症状に合わせた最適な治療法を選択・実施し、機能予後の改善も考慮した治療を提供しています。例えば、重症のくも膜下出血の治療でも、開頭手術によるクリッピング術やカテーテル治療による脳動脈瘤塞栓術など高度な技術を必要とする治療を行うことによつて、高い救命率を保持しています。

心原性脳塞栓症に最新治療法をいち早く導入し、救命率・予後回復率をアップ

脳卒中は脳出血、くも膜下出血、脳梗塞に分類できますが、高

血圧や脂質異常症といった生活習慣病が大きな要因となつて起こる出血性疾患は減少傾向にあります。これは、当院が定期的に開催している脳卒中市民講習会なども含めて、生活習慣病に対する啓発が広く皆さんに浸透してきた結果であり、喜ばしいことです。

一方で脳梗塞は増えており、その脳梗塞のなかでも増加が顕著なのが、心房細動の不整脈が原因で起きる心原性脳塞栓症です。加齢に伴つて心房細動の不整脈が起きる率が高まることから、高齢化によつて患者さんの数も増加しているのです。

この心原性脳塞栓症の治療法が、いま大きく変わつてきています。以前は、アルテプラゼ（LPA）静注療法といった血栓溶解療法が中心だったのですが、それに加えて、詰まっている血管をカテーテル治療（血管内治療）ですぐに再開させると、アルテプラゼ（tPA）静注療法だけの治療に比べて治療後の障害の程度がより軽くなるということが実証されたことから、この治療法が世界で認められ、日本でも日本脳卒中学会が2017年に指針

を改訂しました。

当院では、心原性脳塞栓症の治療に、いち早く血栓溶解療法＋カテーテル治療（血管内治療）の治療法を導入しており、これによつて救命率が高まると同時に、機能予後（術後に麻痺などが残らない）回復率も改善するといった成果を上げています。このように、当院は、心原性脳塞栓症、とくに主幹動脈閉塞の治療では全国的に見てもかなり高い水準の治療を提供しており、地域の皆様、京都の皆様様に安心して治療を受けていただけると自負しています。

中核病院の機動力を生かし、スピーディーに最適な治療を提供

脳卒中にしても重症頭部外傷にしても重症な場合は、限られた時間以内に来る限り早く処置をすることが重要です。どれだけ早く脳血栓回収ができるかが生死を分けるので、治療は一分一秒を争います。その点、当院は中規模病院という利点を生かし、抜群の機動力を発揮できるのが強み。救急隊員から連絡があった

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

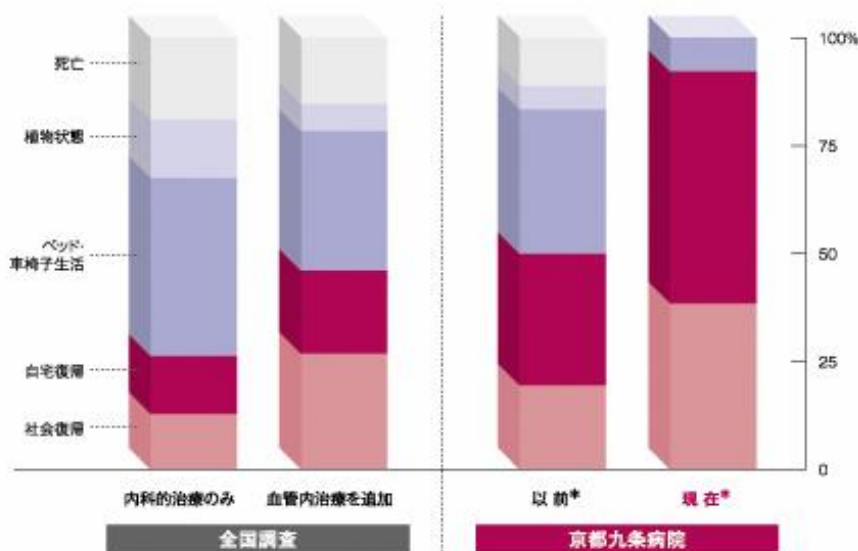
良質な医療を安定的に提供します。
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す
前向きな姿勢を持ち続けます。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- ① 医療は患者さまとご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- ② 「奉仕の精神」を持ち、親切な対応、サービスの向上を心がけます。
- ③ 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- ④ 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- ⑤ 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- ⑥ 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人の健康」に貢献します。
- ⑦ 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスクエアを進めます。
- ⑧ 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

脳主幹動脈閉塞の治療



京都九条病院の治療: 内科的治療のみ、血管内治療を追加、血管内治療のみから最善と思われる治療を選択

*: ステン卜型血栓回収機器承認前と承認後

段階で、何時に患者さんが救急搬入され、何時にCTを撮って、何時から治療を始めるか、瞬時に予定を組み、搬入から1時間以内で手術を始められるように準備を整え、搬入後は一寸のロスもなく治療を実施します。二日前にも重症の脳梗塞の患者さんが病院に運ばれてきて血栓回収の治療をしたのですが、麻痺もなく回復され、もう退院されたんですよ。

このように、患者さんをスピーディーに、且つ適切に治療するとともに、予後の機能回復まで含めてサポートしていくことを目的に、医師や看護師を含む多職種スタッフがストロークケアチーム（※P3を参照）を組織し、超急性期

から退院後まで継ぎ目なく患者さんをケアしていくシームレスケアを実践しています。こうしたストロークケアチームの取り組みによって、救命率だけでなく後遺症の改善率でも全国平均を上回るなど、大きな成果が上がっています。今後は、チームの教育をもっと強化し、病院スタッフの誰もがチームメンバーとして活動できるような体制にしていきたいと考えています。

顔の片側が歪むなど
脳卒中の兆候が現れたら、
すぐ救急車を

脳卒中を発症しないためには、何と言っても予防が第一です。日常的に運動を行うなどして生活習慣病をきちんと治し、心身の変化に気をつけることが肝要です。そのため、これからも啓発活動に力を入れていきたいと考えています。

しかし、脳梗塞はある日突然起こることもあります。顔の片側が歪む、舌がもつれてうまく話せない、足がもつれるといった症状が現れた場合は、脳卒中が強く疑われますので、躊躇せず救急

車を呼んでください。脳梗塞は発症してもあまり痛みがなく、そのために受診が遅れてしまうこともあり、自己判断は禁物です。

また、心房細動の不整脈がある人は、ない人と比べると脳梗塞を発症する確率が約5倍にもなると言われています。健康診断の心電図検査などで心房細動の不整脈が見つかった場合は、自覚症状の有無にかかわらず受診し、薬を服用するなどしてきちんと不整脈の治療をしておきましょう。

頭部に怪我をした場合も、ただちに受診してください。重症頭部外傷という、交通事故などによる大けがを想像される方が多いでしょうが、最近では交通事故も一定の歯止めがかかってきていることから、そうした大けがは減ってきています。ただ、高齢者の方には、脳梗塞や心筋梗塞予防の為に抗血栓療法といって、いわゆる「血をさらさらにする薬」を飲んでいる方も多く、転んでしまうと頭を打つたとか、どこかに頭をぶつけたといった軽微な外傷で、大出血を起すというケースも増えています。「血をさらさらにする薬」を飲んでいる方は、どうぞご注意ください。

01 ストローク(脳卒中)ケアチーム



員でチームを組み、それぞれの専門性を活かして活動しています。どんな活動しているか

ストローク(脳卒中)ケアチームはどんなチーム

脳卒中は発症早期の治療やリハビリテーションにより、その後の回復の具合を大きく左右します。このような脳卒中の初期治療をスピーディかつ効果的に行うために活動しています。

京都九条病院では脳卒中専門医、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、救急外来、集中治療室、脳神経外科病棟の看護師、リハビリテーションスタッフ、医療相談

当院での脳卒中中の入院患者数は年間約150名に上ります。ストロークケアチームは手術をしないに関わらず、脳卒中センターにいられた全ての患者さんを対象としています。月1回の会議では市民講演会の企画、院内教育や学会活動、マニュアルの作成、見直しなどを行っています。毎週各部署で行うカンファレンス、院内ラウンドでは、患者さん一人ひとりの

情報を共有するとともに、各専門職より様々な角度から意見を出し合い、患者さんが最も必要とするケアは何かを検討し現場で実践できるようにしています。

今後の目標

今後の目標は、脳卒中患者さんに関わる病院の全スタッフが急性期の治療を理解し、リハビリテ

ション、再発予防に取り組めるようにシステムを構築することです。

例えば、脳卒中中の緊急入院の場面では、生命の危機状態に陥っていることも少なく、迅速かつ的確な対応、小さな変化を見逃さないモニタリング技術を求められます。いつ何時患者さんが搬送されてこないとも限りませんから、事前に技術を身につけられるように訓練

02 褥瘡対策チーム



褥瘡対策チームとは

京都九条病院では、院内の褥瘡管理を行うため、褥瘡対策チームを設置しています。医師、皮膚科、排泄ケア認定看護師、看護師、栄養

をおこなっておく必要があります。また、障害を負った患者さんのリハビリテーションには、できるだけ早期から離床をすすめ、リハビリテーションを行う機会をできるだけ多くもってもらう必要があります。そのため院内教育や各部署へのラウンドを行い、患者さまにより良いケアしていくための土台作りを進めています。

士などがチームとなり、患者さんの褥瘡の予防や治療にあたっています。

褥瘡対策チームの活動

活動として、週に1度、褥瘡回診を行い、院内をラウンドしています。毎月開催する褥瘡対策委員会では、褥瘡院内発生率や有病率を集計し、院内褥瘡状況の把握にも努めています。また患者さんにあつたマットレスの選択をはじめとする除圧ケアや褥瘡の処置方法などの検討も行います。患者さんの状態に合わせて使い分けができるよう、数種類のウレタンマットレス(褥瘡予防マットレス)を導入して

います。褥瘡発生リスクの高い患者さんには、高機能エアマットやボジショニングの提供に努めています。褥瘡を予防するためには

褥瘡はつくりたくないようにすることが大切です。長い時間、同じ姿勢で寝ているとベッドに骨があたり、皮膚が赤くなることがあります。これは、骨にかかる体重によって、その部分の血の巡りが悪くなることで起こる現象で、それが長く続くと骨と皮膚の間の組織が壊死し、皮膚に傷ができてしまいます。これを褥瘡(床ずれ)と呼びます。

褥瘡を予防するためには、「長い時間、同じ姿勢で過(こ)さない」ことが大切です。定期的に体の向きを変え、同じ姿勢で過(こ)さないように気を付けます。また、寝ているベッドが固ければ、柔らかなマットレスを使用すると効果があります。

どうぞご相談ください

実際にはとても難しく、ご家族の褥瘡で悩んでおられる方も多いのではないかと思います。京都九条病院は、介護される方の負担にも配慮し、限りのある中でより良い方法を提案できるように努めています。どうぞ、お気軽にご相談ください。

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- 1 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 2 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
- 3 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
- 4 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
- 5 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
- 6 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊厳され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊厳し、十分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力をします。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。

京都私立病院協会会長杯争奪
第12回病院対抗フットサル大会で、
京都九条病院チームが初優勝!!



京都私立病院協会会長杯争奪第12回病院対抗フットサル大会の決勝大会が2017年11月23日にサンガフットサルパークで開催され、京都九条病院チームが見事、初優勝を果たしました。

当院チームは2006年の第1回大会から12回連続出場。とはいえ、第1回大会と第11回大会での3位がこれまでの最高位。長い雌伏の時を経て成し遂げた悲願の優勝、メンバーの皆さん、本当におめでとございます。

今大会に参加したのは42施設50チーム。同年11月3日に行われた予選大会では危なげない試合運びで3戦全勝したものの、決勝大会に進んだ26チームは強豪ぞろい。2試合目の洛陽病院Aチームとの対戦ではPK戦で辛くも勝利、また、先制点を許した



試合などもあり、厳しい戦いの連続でしたが、運も味方して、初めて決勝戦に駒を進めることができました。

決勝の相手は蘇生会総合病院Aチーム。とてもチームワークが良く手強い相手、しかも2015年の3位決定戦で負けた相手でしたのでメンバー一同、今回こそは負けられないという強い気持ちで試合に臨みました。結果は1対0で、当院チームの勝利。「それぞれ異なる勤務時間を調整し、協力し合って練習してきたことが優勝という最高の結果に繋がった」とメンバーの皆さん。実行委員の方からも「第1回からともに進んできたチームが優勝して嬉しい」との言葉もあり、感激も一入の様子でした。

する機会となりました。

京都九条病院チームは、今回の結果に慢心することなく連続優勝を目指して練習に励んでいます。スタッフ、関係者の皆さん、試合のときにはぜひ応援にご参加を。皆さんのご声援によってさらにモチベーションが上がります、チームが奮起すること間違いありません。

なお、この大会を通して各チームのメンバー同士の交流が盛んに行われたことも大きな成果でした。もともと、病院の名を挙げるためではなく、病院間の親睦や交流を深めるのがこの大会の目的。当院チームメンバーにとつても、日頃接することの少ない他院のスタッフや関係者、また異職種の人たちと知り合い、様々な情報交換を行えたことの意義は大きく、スポーツ交流の大切さを再確認





ロール白菜

材料(2人分)

1人分のエネルギー/243kcal、たんぱく質/16.3g
脂質/12.4g、炭水化物/15.6g、食物繊維/3.2g
塩分相当量/1.0g

白菜…4枚	だし醤油…16g
豚ミンチ…100g	みりん…10g
木綿豆腐…50g	調整豆乳…200cc
塩…少々	水…100cc
胡椒…少々	ブロッコリー…30g
生姜…5g	人参…30g
玉ねぎ…80g	

- 木綿豆腐はペーパーに包み、電子レンジ(600w1分)で加熱する。しっかり水気を取り、粗熱をとる。
- 生姜、玉ねぎはみじん切りする。人参は輪切りにし、ブロッコリーと一緒に下茹でする。
- ポウルに豚ミンチを入れ、塩胡椒を加え、粘りが出るまでよく混ぜる。
- 木綿豆腐を手で崩しながら加え、生姜、玉ねぎを加え混ぜる。
- 白菜の芯の方を手前に広げ、④を4等分にし、手前に横長に置き、手前・片方と包み、奥へと転がす。
- 鍋に豆乳・水を入れ沸騰直前まで加熱し、⑤を加え弱火〜中火で約10分煮込む。
- 人参・ブロッコリーを加え、中火で約1分加熱する。

風邪や胃腸炎などの感染症の流行する時期。身体が疲れているとウイルスが付け込んできます。特に乾燥した場所は、ウイルスが長時間生きています。ため注意です。また、血液循環が悪くなると免疫力の低下に繋がりますので風邪予防には、手洗い、うがい、十分な睡眠、適度な運動そして栄養が大切です。バランスの良い食事を摂って、風邪対策をしましょう。

また、のどや鼻の粘膜作りの材料でもあるため、基礎体力にさえ抵抗力をアップします。
◎ビタミンB1…豚肉や豆腐、豆乳には疲労回復に効果的なビタミンB1が多く含まれており、米や雑穀、パンなどの糖質の代謝を促進。だるさや疲労の回復を促してくれます。
◎ビタミンA…のどや鼻の粘膜を保護、強化するビタミンAは、レバー、人参、南瓜に多く含まれます。
◎ビタミンC…緑黄色野菜や果物に多く含まれるビタミン

C。免疫力を高め、白血球のサポートをします。
◎ビタミンE…種類類、南瓜、鮭に多く含まれ、酸化と細胞の老化を防いでくれます。
◎生姜…免疫力を高める為には一番効果的な方法は、体温を上げること。生姜は熱するとシヨウガオールという成分になり、血行を促進し、身体を温めてくれるため、風邪予防に有効です。(生姜は刺激物でもあるため、胃腸が弱っている時は大量に摂るのは控えましょう。)
今回はベルシーな風邪予防レシピをご紹介します。

FOOD for HEALTH

健康は毎日の食事から「医食同源」講座

講師 京都九条病院 管理栄養士 森井 智子 Tomoko Mori

身体を内側から温め、ビタミン摂って風邪対策!



REHABILITATION for HEALTH

地道にコツコツ「健康運動」講座

京都九条病院 リハビリテーション部

栄養と運動のセットで体力低下を予防!



年齢を重ね、「体力が落ちた」、「食が細くなった」と感じる事はありませんか? 高齢者の場合、体力の低下や食事量の減少が続くと、介護が必要な状態に移行する可能性があります。健康な生活を送るためには、体力の低下や栄養不足を防ぐことが重要です。今回は、高齢者が栄養や体力など関係の深い、サルコペニアとフレイルについてお伝えします。

サルコペニアは、ギリシャ語の「筋肉」を表す「サルコ」と、「喪失」を表す「ペニア」を組み合わせた言葉で、筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下している状態のことをいいます。転倒や骨折、寝たきりなどの原因にもなるため、十分な栄養の摂取や体力維持、筋力増加のための運動により、サルコペニアを予防する事が重要です。

サルコペニアを判定する簡単な指標として①BMI(体重kg÷身長m÷身長m)が18.5未満であること②横断歩道を青信号で渡りきれないことがあること③ペットボトルや瓶の蓋が開けにくくなっていることが挙げられており、特に①②または③に当てはまる方は、筋肉量や筋力、身体機能の低下が疑われる為、注意が必要です。

フレイルは、加齢に伴い身体の前段階で、前述したサルコペニアもフレイルになる原因の一つです。フレイルは、筋肉や身体機能の低下以外に、疲労感や活力の低下を含みます。

フレイルやサルコペニアを予防するためには、バランスの良い食事と適度な運動習慣が大切です。特に運動は、散歩だけでなく、スクワットや片足立ちなど筋力やバランスを鍛えるための運動が効果的です。転倒しないよう、固定された家具などを支えにして1日3回程程度の運動が目安です。膝や腰が痛くて運動が出来ない方は、医師にご相談ください。





さらしを巻き、祭り衣装に身を包めば心も身体も一気に祭りモード突入です。

神輿を担いで、
交流を深めることは
私の大事な
プライベートの一つです。

FACE
of DOCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ◎
京都九条病院 消化器外科部長 兼 臨床栄養部部長
北川 一智
Kazutomo Kitagawa



消化器外科の診療を行うのはもちろん、管理栄養士さんたちと一緒に患者さんが1日も早く回復し、退院後もより良い生活ができるように努めています。これからは介護施設や介護の仕事をしている方々との繋がりも大事にしていきたいと思っています。

私がプライベートでしている事はいくつかあるのですが、その中の一つがお神輿担ぎ。10年ほど前から神輿の会に入っていて、地元の上御霊神社の御霊祭をはじめ、祇園祭や伏見稲荷の稲荷祭などにも神輿を担ぎに行っています。威勢の良いかけ声に合わせて練り歩き、神輿を高々と力一杯差し上げると、見物客から大きな拍手や歓声がわき上がります。この瞬間は担ぎ手の気分もぐっと上がるんですよ。年季の入った人たちの中で、

まだまだ担ぎ手として研修レベルの私も奮闘しながらお祭りに参加。みなさんと味わう高揚感や一体感は格別で何度でも参加したくなりますね。神輿の会には若い人から熟年まで幅広い年齢層の人がいて、納会や新年会などで交流するのもまた楽しみの一つです。

あと、散歩をするのも好きですね。昔はよく山を歩きに出かけていましたが、今はもっぱら街歩きを楽しんでいます。京都には至る所に史跡がありますから、それを巡りながら歩いたり、時には奈良まで出かけることもあります。ゆっくりとぶらぶら歩きながら思わぬ発見をするというのも散歩の醍醐味です。

LOVE
my HOSPITAL

私の病院自慢あれこれ◎

京都九条病院のいいところ。
こんなところがわたしたちの自慢です。
病院のことが好き!!

好きな言葉
favorite word
「ありがとう」
小糸 ひかる
看護部 外来 クラーク



スタッフの皆さんが優しいんです。医療系の学校を卒業したので、少しは病院のことを分かっていたつもりでしたが、実際には知らないことも多く、最初は戸惑うこともあったものの、皆さん丁寧に教えてくださるので、とても助かりました。私の仕事は、医師の方々が患者さんとの時間を多く持てるように、事務作業を補助すること。そのためには、それぞれの専門分野について覚えなければならぬことがいっぱい。しっかり知識を増やしてより仕事ができるようになりたいです。

好きな言葉
favorite word
「努力」
真田 康也
薬剤部 薬剤師



先輩が頼りがいがあるんですよ。新人の私にいろんなことをトライさせてくれるのも有り難いですね。時には厳しく指導されることもあります。普段は優しく接してくれるので、しっかり学んでいこうという気持ちになります。薬剤師というイメージで座って調剤をしているというイメージですが、毎日病棟を回って、投薬の説明や飲み方の指導、薬の管理の仕方を伝えたりとけっこうハード。まだその日の業務をこなすだけで一杯ですが、毎日の積み重ねを大切に成長していきたいと思っています。

好きな言葉
favorite word
「積小為大」
上貞 直也
リハビリテーション部
理学療法士



一人ひとりの患者さんに対していろんな職種のスタッフがともにサポートしていく体制がとれていることです。作業療法士や言語聴覚士をはじめ看護師など、職種の違いはありますがコミュニケーションが取りやすく、患者さんの情報や状態などもしっかり共有できるので、より適切な治療が行えるんですよ。今の課題は、患者さんの「リハビリは痛い」という思い込みをなくしていくこと。リハビリがストレスにならないよう、和めるような雰囲気をつくっていききたいですね。

好きな言葉
favorite word
「感謝」
西村 美穂
看護部 4階病棟



職種間の連携がしっかりしている点です。例えば、栄養士さんも献立を考えるだけでなく、病棟を回って患者さんが実際に食べるところを見に来てくれますので、それが患者さんの状態に合う食べやすい食事の提供に繋がっていると思います。3月で入職1年。仕事にもだいぶ慣れてきたので、今後は患者さんやご家族の気持ちにもっと寄り添い、サポートしてあげられればと考えています。身体のことだけでなく、ご家族も含めて精神的なケアができるような看護館になりたいですね。



院内散策
さんさん

38

『第12回京都九条病院 病診・病病連携セミナー』

主催 京都九条病院

平成29年11月18日(土)、京都東急ホテルにて、「第12回京都九条病院 病診・病病連携セミナー」を開催いたしました。これは、地域医療サービスのさらなる充実を目的として、当院と地域の病院・診療所との連携、また当院内のスタッフ間の連携を促進するために毎年行っているものです。

セミナーは山木垂水院長の挨拶ではじまり、第一部では、地域医療連携室の道下智之係長が、地域医療連携室の活動について報告。連携室の開設目的を説明した後、医師や看護師、社会福祉士、医事課スタッフと共に、患者さんの退院後の生活相談をはじめ、転院相談、介護保険に関する相談などに対応し、地域医療ネットワークを活用して多様な問題の解決に当たっていることを紹介。地域の皆さんが抱える健康・医療に関する様々な問題に対応できる体制を整えているので、困ったことがあればぜひ相談してもらいたいと訴えました。

次に、介護事業部高木善史次長が介護事業部マムのこれまでの歩みと、唐橋地域包括支援センターや居宅介護支援マムステーションをはじめとする在宅介護サービスの事業所概要、ならびに各施設介護サービスの特長、利用実績を紹介。そのうえで、各サービスを利用するための手順について説明し、いっそうの活用を促しました。

最後に、神原毅彦副院長が閉会の挨拶として、京都九条病院全体がチーム医療体制で地域の皆さんの健康生活の向上に貢献していくことを宣言し、会場から大きな拍手が送られました。

第二部では、消化器外科部長・臨床栄養部部長の北川一智医師より「京都九条病院における消化器がんに対するチーム医療」と題して講演。当院消化器科で取り組んでいるチーム医療について、実例に基づいて解説しました。

まず、当院消化器科ががんの手術を受ける患者数が近年倍増していること、さらに消化器がんの治療には、外科手術だけでなく内視鏡手術、化学療法、緩和ケアを含めて様々な治療法があり、それぞれの患者さんに最適でより質の高い治療を提供していくためにはチーム医療が重要であることを説明したうえで、こうした治療を支える「栄養サポートチーム」「周術期管理チーム」「緩和ケアチーム」の活動を紹介。中でも、「周術期管理チーム」を中心としたERAS(術後回復促進プログラム)の導入によって、術後回復が促進され入院日数の大幅な短縮が実現していることを報告しました。

京都九条病院では、これからもこうしたセミナーを開催するとともに、あらゆる機会を通して地域の病院・診療所との連携を強め、地域の方々が安心して暮らしていけるよう、サポート体制の充実を図っていきます。

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町10 TEL 075-691-7121(代)

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マムフローラ
〒617-0853 京都市長岡京市奥瀬町寺奥ノ路25-2 TEL 075-958-3388(代)

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マムクオーレ
〒601-8325 京都市南区吉祥院南落合町40-3 TEL 075-691-7755(代)

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マムクオーレII
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38 TEL 075-694-6655(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
訪問看護ステーション・マム
〒601-8454 京都市南区唐橋藤屋町16 TEL 075-661-3820(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
訪問リハビリテーション
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町10 TEL 075-694-6644(代)

医療法人同仁会(社団)
ヘルパーステーション マム
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38YAM-スクエア内2階 TEL 075-694-6622(代)

医療法人同仁会(社団)
京都市唐橋地域包括支援センター
京都市唐橋地域包括支援センター 介護予防支援事業所
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38YAM-スクエア内1階 TEL 075-694-6222(代)

医療法人同仁会(社団)
居宅介護支援マムステーション
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町38YAM-スクエア内2階 TEL 075-694-6669(代)

医療法人同仁会(社団)
ショートステイ マム
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町10 TEL 075-691-7667(代)

医療法人同仁会(社団)
同仁会クリニック
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町30 TEL 075-691-7766(代)

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)
同仁会疾病予防研究所
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町30 TEL 075-691-5070(代)

医療法人同仁会(社団)
西京病院
〒615-0028 京都市右京区岡崎北伏見町39-1 TEL 075-313-0721(代)

京都九条病院(提携)・同仁会クリニック(併設)
メディカルフィットネススクラブ SHIN-SHIN
〒601-8453 京都市南区唐橋藤屋町30 TEL 0120-558-756

医療法人同仁会(社団) ホームページ www.dojinkai.com/